(2019.4改正)

**＜別紙１＞**

**第三者評価結果報告書**

①第三者評価機関名

|  |
| --- |
| 株式会社フィールズ |

②施設・事業所情報

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 名称：ココファン・ナーサリー矢向 | | 種別：認可保育所 | |
| 代表者氏名：齋藤　真紀 | | 定員（利用人数）：60名（51名）　　名 | |
| 所在地：〒230-0001神奈川県横浜市鶴見区矢向4-22-13 | | | |
| TEL：045-585-1045 | | | |
| ホームページ：https://nursery.cocofump.co.jp/nursery\_school/yakou | | | |
| 【施設・事業所の概要】 | | | |
| 開設年月日：2013年4月1日 | | | |
| 経営法人・設置主体（法人名等）：株式会社学研ココファン・ナーサリー | | | |
| 職員数 | 常勤職員：9名 | | 非常勤職員：8名 |
| 専門職員 | （専門職の名称）　　　　　名 | |  |
| 保育士:12名 | | 栄養士：3名 |
| 調理員：1名 | | 看護師：1名 |
| 施設・設備の概要 | （居室数）保育室：3室 | | |
| （設備等）トイレ：幼児トイレ・多機能トイレ1、調理室：厨房1、事務室：1、職員休憩室1、沐浴室・調乳スペース1、屋上多目的スペース2 | | |

③理念・基本方針

|  |
| --- |
| 保育理念  すべての人がゆたかに生きることを願い 今日の感動・満足・安心と明日への夢・希望を提供します  保育方針  １．子どもの養護と教育を両輪とした、子ども主体の心と体の育ちの支援  ２．子ども一人ひとりの認知・発達に応じた、個々の発達支援  ３．地域社会のすべての子育て家庭に対する、様々な取り組みによる育児支援  保育目標（目指す子どもの姿）  １．基本的な生活習慣が確立した子  ２．心も体も自立した子  ３．自律した行動がとれる子  ４．他人に対する思いやりと寛容な気持ちを抱き、援助ができる子 |

④施設・事業所の特徴的な取組

|  |
| --- |
| ココファン・ナーサリーの取り組み  １．子どもが本来持っている「育ちのチカラ」を伸ばします  ２．子どもの主体的な活動を援助し、子どもの発達を促します  ３．養護と教育の一体化を実践し、家庭と連携します  地域の特色  JR南武線矢向駅または尻手駅より徒歩７分位の住宅地の中にあります。家庭との連携を大切にし、子どもたち一人ひとりの個性に光を当て、子どもたちが本来持っている「育ちのチカラ」を伸ばしていきます。  「育ちのチカラ」を育む取り組みとして、学研の総合絵本を使った読み聞かせや、絵本・図鑑コーナーの設置、絵本の貸し出しなどを通して絵本を身近な生活の中に取り入れています。また学研の幼児教育カリキュラム（もじかずランド）（スポチャン教室）を通して、子どもの興味関心を大切にしながら、子どもの発達や成長に適した活動を行っています。その他、子どもたちと高齢者のふれあい、思いやりの心を育む多世代交流を大切にしています。 |

⑤第三者評価の受審状況

|  |  |
| --- | --- |
| 評価実施期間 | 令和3年7月15日　（契約日）　～  　令和4年3月23日　（評価結果確定日） |
| 受審回数（前回の受審時期） | 1　回（2016年度） |

⑥総評

|  |
| --- |
| ◇特に評価の高い点  1)子どもの気持ちに寄り添う保育  子どもの発達と発達過程、家庭環境などから生じる一人ひとりの子どもの個人差を充分に把握し、尊重することを大切にしています。「抱っこして」「絵本読んで」「眠いよ」といった子どもの欲求をできる限り受け取め、子どもの気持ちに寄り添った対応をすることを心がけています。ネガティブな言葉や否定的な言葉は使わず、肯定的な言葉遣いで話しかけています。配慮が必要な子どもを基準としたわかりやすい言葉かけをし、日々の保育の中で子どもの今の気持ちが、満たされるよう努めています。  ２)保育士間のコミュニケーションとチームワークの良さ  園では、0，1，2歳児クラス、3歳児クラス、4，5歳児クラスの3つの保育室で安全性を確保しながら活動を行っています。活動内容によってはクラスを分けて行いますが、このクラス編成により、子どもたちは日常的に異年齢児の刺激を受けながら、一人ひとりに応じた発達や人間関係が自然に育まれています。保育士も担当クラスだけでなく、異年齢の子どもの様子を観察し、成長過程を学び、活動内容や状況を共有することができています。クラスを超えて子どもを見守り、意見交換を行うことで保育士間の信頼とチームワークの良さが築かれています。保育士は一人ひとりの子どもの特性や活動の様子を把握しており、降園時にはどの保護者にもその日の様子を丁寧に伝えることができています。園では一日一日の子どもの育ちを保護者と共有し、支援することを大切にして保育を行っています。保護者からは、何でも相談しやすく、安心して預けられると高い評価を受けています。  ３)素材を生かし、創意工夫した給食提供  栄養士は、給食時に各クラスを見回り、子どもたちの喫食状況や量などをチェックしています。子どもが食べやすく、見た目も大切にした調理法や興味を引き出す工夫に努め、食べてみたい、また食べたいと思える給食づくりに徹しています。添加物を避け、旬の素材の味を天然だしのうま味で引き出すなど、安心・安全で美味しい給食提供をしています。伝統的な行事食も取り入れ、行事にまつわる意味や由来も分かりやすく説明しています。鯉のぼり型のハンバーグやクリスマスツリーに型どった給食は、見た目も楽しめ、子どもたちに大人気です。  ◇改善を求められる点  1)事業報告・事業計画は、具体的・段階的な改善策を策定  保育内容に関する職員の自己評価、保護者の行事後のアンケート、及び保育所の自己評価などは定期的に実施し、全体像を把握していますが、それぞれの評価結果から明らかになった課題を段階的に改善していく仕組みが十分ではありません。園全体の課題を明確にし、継続的に見直し、改善を繰り返しながら中長期ビジョンの目標達成に繋がる事業報告・事業計画の策定が期待されます。 |

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

|  |
| --- |
| この度は、第三者評価を受審いたしまして、保育所運営に関わる 様々な点や組織における振り返りをすることができました。第三者評価受審は2回目となりますが、初めての受審経験者が多く、全職員で「第三者評価」に一から取組、「自園の保育」「子ども主体の保育」とは何かを考え、園全体でより質の高い保育を実現するためには何をするべきか意識の向上に努めていきたいと思います。利用者アンケートを通じて頂いた貴重なご意見も真摯に受け止め、保護者の方に心から感謝をし、子どもに対する対応を統一化しに日における保育の質の向上のために職員一人一人の意識向上に努めてまいりたいです。これからも、皆様に安心してご利用いただける、地域に根付いた保育・運営を行ってまいります。 |

⑧第三者評価結果

　　別紙２のとおり